

次の各傍線部に含まれる敬語について、**敬語の種類**、**誰から誰への敬意か**答え、傍線部を**現代語訳し**、さらに、**普通語**を使って傍線部を書き換えてください。

「翁が天人に」「ハハ」に①おはするかぐや姫は重き病をしたまへば……と②申せば、……

① (尊) (翁) →かぐや姫) 「いらつしやる」 「ある、ゐる」 ()

② (謙) (書き手) →天人) 「申し上げると」 「(言へば」 ()

この殿、内裏に参り給ひて、殿上に③さぶらひ給ふを、帝、④御覽じて……

③ (謙) (書き手) →帝) 「控え申し上げ」 「(ひかへ、をり」 ()

④ (尊) (書き手) →帝) 「御覽になつて」 「(見て」 ()

「女房が光源氏に」「いでや、「姫君は」よろずおぼし知らぬさまに⑤大殿籠り入りて」など⑥聞こゆ折りしもあなたより来る音して、……

⑤ (尊) (女房) →姫君) 「おやすみになつて」 「(寝入りて」 ()

⑥ (謙) (書き手) →源氏) 「申し上げる」 「(言ふ」 ()

帰り参りてこの由を⑦奏す。

⑦ (謙) (書き手) →帝) 「(帝に) 申し上げる」 「(言ふ」 ()

この御子、三つになり給ふ年、御袴着のはかまきこと、一の宮の⑧奉りしに劣らず。

⑧ (尊) (書き手) →一の宮) 「お召しになつた」 「(着し」 ()

「隨身が源氏に」「かの白く咲けるをなむ夕顔と⑨いひ侍る」

⑨ (丁) (隨身) →源氏) 「言います」 「(言ふ」 ()

「六十にあまる年、珍らかなる物を⑩見給へつる」

⑩ (謙 or) (話し手) →聞き手) 「見ましたよ」 「(見つる」 ()

「女房が姫君の父宮に」「姫は」夜昼、「尼君を」⑪恋ひ聞こえ給ふに、はかなきもの(=ちょっととしたもの)も⑫聞こし召さず」とて……

⑪ (謙) (女房) →尼君) 「恋しく思い申し上げ」 「(恋ひ」 ()

⑫ (尊) (女房) →姫君) 「お召し上がりにならない」 「(食はず」 ()